

# 国分寺市行政改革推進委員会会議録（第3回）

日 時：令和7年8月26日（火）19時～

開催場所：市役所401会議室・オンライン

出席委員：藤井委員長、細野副委員長、高橋委員、岩井委員、川島委員、松岡委員、今井委員

欠席委員：倉地委員

傍聴者：

## 1 協議事項

- ・国分寺市ビジョン後期実行計画・国分寺市総合ビジョンの総括について

## 2 報告事項

- ・第2次国分寺市総合ビジョンの施策評価について

## 3 その他

### <会議録>

藤井委員長：令和7年度第3回国分寺市行政改革推進委員会をはじめます。

本日は、国分寺市ビジョン後期実行計画・国分寺市総合ビジョンの総括について協議します。それでは事務局より説明をお願いします。

事務局：はじめに、国分寺市ビジョンと国分寺市ビジョン実行計画について、御説明します。

国分寺市自治基本条例では総合的かつ計画的な市政運営を図るため、基本構想の策定を定めています。国分寺市では、平成29年度から令和6年度までの8年間の新たな基本構想「国分寺市ビジョン」と称しています。

この国分寺市ビジョンでは、まちづくりを進める上での目標として未来のまちの姿を「魅力あふれ ひとがつながる 文化都市国分寺」と定めています。

そして、未来のまちの姿を実現するために「ひとと文化を育むまち」「活躍できる成長のまち」「いきいき健やかなまち」「心安らく快適なまち」「未来につながる持続可能なまち」の五つの分野別都市像を定め、まちの将来像を共有し、市の進むべき方向をお示ししております。

また、8年間の基本構想である国分寺市ビジョンを実現するために、具体的な取組等を「国分寺市ビジョン実行計画」と決めました。この実行計画は、社会状況の変化を踏まえ必要な見直しができるよう4年間を一つの期間として前期と後期に分け進めております。今回は、令和3年度から令和6年度を期間とした後期実行計画において進めている36施策について、昨日まで皆様に御議論いただきました。

「国分寺市ビジョン」と「国分寺市ビジョン実行計画」この二つを合わせて「国分寺市総合ビジョン」と称しており、市の最上位計画として位置付けています。以上が、国分寺市ビジョンと実行計画の説明となります。

ここからは、本日の協議事項の内容について説明させていただきます。

本日は、五つの都市像、国分寺市ビジョン後期実行計画、市の最上位計画である国分寺市総合ビジョンの全7項目の総括について、御意見を頂戴します。なお、参考として事務局にて意見案を作成いたしましたので概要を御説明します。

五つの都市像については、子ども・学び・文化は施策1から施策10、地域振興は施策11から施策16、保健・福祉は施策17から施策20、くらし・環境は施策21から施策30、公共経営は施策31から施策36で構成しています。

各都市像の意見案については、冒頭に各施策にあるまちづくりの指標の達成状況の割合を示しています。令和6年度時点の指標の達成率について、達成率が100%以上であれば達成、100%未満80%以上であればおおむね達成、80%未満ならば未達成としています。2段落目以降からそれぞれ施策の成果や課題を踏まえた上で、各都市像の今後の動きについて意見案を示しています。

続いて、国分寺市ビジョン後期実行計画（全期間）の意見案については、36施策全てのまちづくりの指標の達成状況について、冒頭で記載している2段落目以降からは計画期間中の社会情勢を含めて、全体的な評価を記載しているところです。なお、指標の達成状況の割合に関する詳細は、別資料のまちづくりの指標の達成状況を参照ください。

最後に、未来のまちの姿の意見案については、期間が8年間であることから前期実行計画時の成果及び期間中の社会情勢も含め、長期的な視点を持って意見案を記載しています。

以上の各意見案について、1項目ずつ協議いただきますよう、よろしくお願いいたします。

藤井委員長：事務局からの御説明について、御質問等あれば御発言をお願いします。

細野副委員長：総括文ですが、委員会としてのスタンスを書いていたということで良いでしょうか。また、総括文を誰に出すのかを少し明確にさせていただきたいと思います。

事務局：それぞれの施策について委員会からいただいた意見を踏まえ、各都市像として枠を広く捉えて総括として記載しています。なお、対外的にこの総括をお示しする予定はございません。

細野副委員長：予期せぬコロナ等、8年間の計画の中で、様々なことがあったわけです。その中でも着実に市政運営を進めてきたと考えておりますが、この計画に対して総括する時には、委員会はどのような視点から総括をしたという前書きが必要だと思っておりますが、いかがでしょうか。

藤井委員長：総括の鑑はどのようなものを想定されていますか。

事務局：前期実行計画時での総括の鑑では、「諮問第1号の標記の件について、当委員会で検討を行いましたので別紙のとおり答申します」と示しています。別紙というのが総括と施策マネジメントシートに当たります。

どのような視点を持って検討を進めてきたのかについて、答申の鑑のところに盛り込むことは可能かと思えます。

細野副委員長：外国人との共生や、社会インフラの老朽化、少子高齢化と生産年齢人口の減少に伴い財政計画についても見直しが必要になるなど、様々なことがありました。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大もあり、そのような中でも一生懸命に市政運営を進めてこられた行政に対して、行政改革推進委員会はどのように評価をしたのか、どのような視点で総括をしたのかということは、あってしかるべきと考えます。

事務局：本日までの議論の中で人口減少、社会構造の変化、地域の活性化、コミュニティ、情報発信

などのキーワードが挙げられていました。また、昨年度までの行政改革推進委員会の中では、防災や子育てについても御意見を頂戴しましたので、これらを参考に答申の鑑を作成いたします。

藤井委員長：ほかに何かございますか。それでは、分野ごとの総括に入りたいと思います。はじめに子ども・学び・文化の括り、施策1から順に進めていきます。何かお気付きの点等あるようでしたら御意見いただきたく思います。

高橋委員：一次ビジョンの8年間を振り返っての総括に当たり、国分寺市総合ビジョンのスローガンである「魅力あふれ ひとつつながる 文化都市国分寺」の中で、大切なキーワードは「魅力あふれ」だと思えます。

昨日までの議論にもありましたが、「魅力」という言葉が、どちらかというとも歴史文化に限定されていたように感じます。それはそれで良いのですが、伝統的な魅力に加えて新たな国分寺市の魅力は何か、それをどうやって作り上げていけばいいのか、そのような点が議論されていたと思えます。

第2次国分寺市総合ビジョンでは、「国分寺の魅力」が「シティプロモーション」に変わり、歴史文化から一歩進んだ形で施策にされていますが、そのほかにも、例えば、子育てにおいても、国分寺市は子どもを育てやすい、住みやすいといった議論がありましたし、商業振興においても商店街や、新しい魅力にあふれる店舗が登場してくるような、魅力あふれる創業といった議論もありましたので、この8年間では、全般にわたって市の魅力向上について進めてきたということを経験文の中で補っていただきたいと思います。

具体的には、1の子ども・学び・文化でいえば第2段落の3行目「評価に値する一方で、待機児童は解消できていないことから」の後に「国分寺の魅力を高めるため」という言葉を入れて、更に「幅広い子育て支援サービスなどを整備し」とつなげていけば、市が伝統的な魅力に加えて子育ての面でも魅力向上に取り組んできたことを評価するニュアンスが出ると思えます。

事務局：魅力が文化芸術や歴史だけではなく、いろいろな分野にまたがっていることを入れていく形で整理したいと思います。

藤井委員長：次に、地域振興について御意見はありますか。

高橋委員：「新たな個性や魅力を持った事業者が参入することも重要である」を使っていたかと思えます。

事務局：御指摘のとおり修正します。

藤井委員長：ほか皆さんいかがでしょうか。なければ、次に保健・福祉について御意見ありますか。

事務局：こちらにつきましては、施策19生活福祉の中で、生活困窮においては家庭環境をはじめ複合的な課題があるため、関係機関との横断的な連携が必要になるとの御意見をいただきました。その御意見を踏まえ、事務局としては、保健・福祉の意見案の中に追記を予定しております。具体的には下から2行目前半に「環境を整えるために」との文言があります。この後の表現を「表面的な支援にとどまらず、家庭環境や経済状況など多面的かつ複合的な問題に対して、包括的に支援できるような体制の構築や内容の拡充について、関係機関と一体となって取り組んでいただきたい。」に修正いたします。

藤井委員長：ただいまの事務局からの説明に対して何か御意見等ありますか。なければ次に進みます。次はくらし・環境について御意見等ありますか。

松岡委員：分野別の都市像にある「心安らぐ快適なまち」というキーワードが一番キャッチーだと思います。安全安心なまちづくりが進むと、心安らぐ快適なまちづくりにつながっていくという意味であり、すごく良い言葉だと思います。

岩井委員：安心安全は自治体で重要なアピールポイントです。特に移住者には絶対アピールした方がよいポイントです。

事務局：御指摘いただいた意見を踏まえ文言を修正いたします。

細野副委員長：地域振興の中に「地域を支えるコミュニティの支援や新たな担い手の育成」とありますが、地域コミュニティは安心安全にとってとても大事だと思いますので、こちらの分野にも、地域コミュニティについて触れていただきたいと思います。

事務局：文言を調整し、修正いたします。

細野副委員長：よろしくをお願いします。

藤井委員長：公共経営について、御意見等ありますか。なければ、次の項目に進めさせていただきまします。次は国分寺市ビジョン後期実行計画（全期間）です。ここについて御意見等いかがでしょうか。

事務局：こちらにつきましても第1回、第2回の協議の中でも、切れ目ない支援や国分寺の魅力など、分野横断に関する御意見いただいていますので、その点については追記させていただく予定です。加えて、社会構造の変化や、中長期的な視点から見た人口増加など、定住促進の必要性についても各施策を点で捉えるのではなく、線として横断的に捉えて関係各課との連携についても追記いたします。

藤井委員長：事務局からの補足説明に対して御意見等ありますでしょうか。

岩井委員：先ほどの公共経営に関わることですが、「市民が求める」という表現を入れた方がよいのではないのでしょうか。DXは効率化の先に市民の利便性の向上があると思いますので、市民が必要とするなどの言葉を一言入れた方がよいと思います。

事務局：市民ニーズの把握については、どの施策においても市民サービスを提供する上で必要になりますので、意見案を修正いたします。

藤井委員長：ほか皆さんいかがでしょうか。

細野副委員長：「長期的な視点に立ち」とありますが、住民目線で選ばれるまちになるためには、攻めの姿勢はすごく大事だと思います。

これからますます行政間の競争、住民を獲得するための競争が激しくなると思いますし、今の多摩地域の市町村をそのまま維持することはできないかもしれない。国分寺としては魅力のキーワードもありますが、もう少し攻めの姿勢を出して、「維持」という言葉でない表現にしてアピールしてはいかがでしょうか。更に高みを目指すことを市民の皆さんとしては期待していると思います。

岩井委員：もっと上を目指して、将来的には国分寺モデルのような、選ばれるところまでいっていただきたい希望があります。従来計画を維持していくではなくて、もう少し上を目指せるのではないかなと思います。

事務局：いただいた御指摘は本市にとっても重要な視点かと思いますが修正させていただければと思います。

ここで、公共経営について1点補足ですが、第1回での文化芸術の施策の中で、イベントなどの参加形式をもう少し多様化させたほうが良いとの御意見があり、こちらについては総括の

中に記載すると回答しておりましたが、公共経営の意見案にある「誰もが市政に関心を持ち参加できるよう手法の検討を進めると共に」と文言で、御指摘事項を補えていると考えております。したがって、総括文の内容に新たに追記いたしませんので、その点について御意見いただければと思います。

藤井委員長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、未来のまちの姿に進みます。御意見等ありますか。

岩井委員：選ばれる国分寺とか、そうした言葉入れても良いのではないですか。持続可能は前提で、更に持続可能にしていくために選ばれるといったニュアンスはいかがでしょうか。

事務局：下から3行目の終わりに、「住みたい・住み続けたいと感じる持続可能なまちを目指し」とありますが、その部分の表現を工夫し、追記いたします。

川島委員：戻りますが、子ども・学び・文化の文言を読んでいくと、未就学児童を対象にした表現な気がします。

実際にマネジメントシートを見てみると、グレーゾーンの子たちをバックアップするような発達支援センターができて、相談件数も増加していたわけですが、国分寺市はグレーゾーンの子にとって住みやすいまちです。バックアップの体制が整備されており、それを目当てに他市から移ってくる人もいるくらいなので、全年齢の子どもたちに対して取り組んでいるといった文言が入ると良いなと思いました。

事務局：子ども・学び・文化の文章の中で文言を追記させていただきます。

藤井委員長：ほかに皆さんいかがでしょうか。なければ、以上で協議事項終了とさせていただきます。

続いて、報告事項に入ります。事務局から説明をお願いします。

事務局：報告事項、第2次国分寺市総合ビジョンの施策評価です。

国分寺市ビジョンが令和6年度で計画期間を満了し、令和7年度から始動する第2次国分寺市総合ビジョンが策定されました。

第2次国分寺市総合ビジョンは、令和7年度から令和14年度までの8年間を計画期間としており、実行計画では一次同様、前期と後期の各4年間に分かれたものとなっています。市では令和5年度から第2次国分寺市総合ビジョンの策定に向け全庁的に取り組んでまいりました。

基本的には前計画に掲げた施策の考え方を踏襲する一方で、社会環境や市民ニーズに柔軟に対応できるように、親和性の高い施策の統合や、市として重要度が高い判断されるものについては、新たに施策に設定するなどの整理を行いました。その結果、第1次国分寺市ビジョンでは36施策としておりましたが、第2次国分寺市ビジョンでは31施策に整理しました。

また、本委員会でもこれまで御指摘を受けた各指標の設定と、市民アンケートの活用についても第2次国分寺市ビジョンを機に、見直しを行いました。

具体的には、まちづくりの指標や、中心事業の指標については原則定量的な目標を設定して、実績値を明確にすることでその後の改善に向けた分析を図ることができるようになりました。例えば、事業ごとの利用者アンケートをはじめとした実態調査も積極的に実施して、市民ニーズを的確に捉えるように改善しました。また、市民3千人を対象にした無作為抽出での市民アンケート調査結果の指標活用について、第1次国分寺市ビジョンでは、子育てや介護など対象者が限定されたものについても活用している場合があり、結果的に「分からない」に回答が集中してしまうといったことがありましたので、人権や環境、スポーツなど年代性別国籍問わず幅広い市民が関わりを持つ指標には市民アンケートを活用するといった工夫を行いました。

また、これまでの市民アンケートの調査の課題として、選択肢に設けられた「普通」や「どちらともいえない」などの中立的な回答に票が集中してしまい、市民の評価を正確に把握する術がないという課題もありましたので、回答の選択肢の見直しを行いました。

さらに、施策マネジメントシートについても第2次国分寺市総合ビジョン策定を機に見直しを図りました。具体的な内容としては、従来の施策マネジメントシートでは、記載項目が多く、回答が重複しているものもあり、情報量が多く、その分文字が小さくなるなど市民にとって非常に読みにくいシートになっているといった課題がありました。この点に関しては、これまで委員の皆さまから御指摘いただいておりますので、様式の見直しが必要であると事務局としても受け止めていました。

そこで新様式では、こういった課題の解消に向けて、見やすさを重視しつつ、従来と同様に施策評価として必要なPDCAサイクルの考え方を継承できる内容としています。主な見直し箇所は2点ありまして、一つ目、従来のマネジメントシートでは、これまでの成果と今後の課題を分けておりましたが、新様式では、これを一つにまとめて記載するように変更をいたしました。

二つ目が、右下の最終方針です。従来では、予算の方針と施策の方針、それぞれの項目がありましたが、予算内容も踏まえて次年度の施策について、どう進めていくかを一つに記載するものとししました。このように、新しいマネジメントシートを活用して、次年度の施策評価についても、市民の皆さまにも分かりやすく、施策の進捗状況をお伝えできればと考えています。説明としては以上となります。

藤井委員長：事務局からの報告について何か御意見等ありますでしょうか。

細野副委員長：平均値の下にある、「実数」とはなんですか。

事務局：実数には施策の結果として施策に対する満足度の数値が入ります。平均値においては、全施策の満足度の平均値を記載する想定です。平均値に関しては各施策全て同じ数値が入り、全施策の満足度の平均値から見て、該当施策がどのような位置にあるかを可視化する想定です。

細野副委員長：実数はいらないのではないかと思います。平均値は全施策の平均値を書くのでしょうか。全施策の平均値から見ることに意味があるのか疑問に感じます。

事務局：第2次国分寺市総合ビジョンの新しい様式については、確定しているわけではございませんので、本日、委員の皆さまに報告し、いただいた意見を反映させていきたいと考えています。平均値、実数等の考え方については、改めて整理、検討させていただきます。

細野副委員長：ぜひよろしくをお願いします。

藤井委員長：ほか皆さんいかがでしょうか。

高橋委員：施策マネジメントシートを個別に検討する中で、施策の中心的なテーマと中心事業の選び方がマッチしていないのではないかとか、市民アンケートの項目によっては非常に尋ねにくいとか、その辺りを苦労されているなど感じました。ちなみに、中心事業については前期と後期で入れ替えは可能でしょうか。

事務局：はい。

高橋委員：その点が必ずしも4年ではなく、場合によっては4年以内での見直しも必要ではないかと考えます。また、後から調整がしにくいので、市民アンケートについては設問の設計をよく考える必要があると思います。

事務局：第2次国分寺市総合ビジョンの策定は政策経営担当が主となって進め、市民アンケートに関しては行政改革推進担当の所掌となることから、両担当で連携を取りながら各課と調整し、ア

ンケート設問や指標の設定をさせていただきました。第1次国分寺市総合ビジョンの中で、指標設定については多くの御意見をいただきましたので、各課に指標を設定するには委員会の御意見を踏まえ、定量的に測れるような指標となるよう、作成させていただきました。

また、市民アンケートの結果を指標に設定する際には、市民アンケートとの相性も考慮いたしました。特に、子育てや介護などの分野のように利用者や対象者が限定されているものは、幅広い年代に対して実施する市民アンケートと相性が悪く、分からないや無回答を選択される方の割合が増えてしまい、このことについては委員会でも御指摘いただいていた。そこで、市民アンケートを活用する指標は、例えば環境や防災、スポーツなどのように全年代国籍問わず全市民の方が恩恵を受ける分野については、市民アンケート結果の指標設定を認め、それ以外のものに関しては基本的には各事業の中で調査を実施し、対応するよういたしました。

このような整理で第2次国分寺市総合ビジョンからは、指標を設定させていただいていますが、それでも馴染まない指標設定がある場合には、年度ごとに指標の見直しができるような仕組みになっています。

高橋委員：承知いたしました。

藤井委員長：ほかに皆さんいかがでしょうか。次に、その他です。事務局から何かありますでしょうか。

事務局：（事務局から事務連絡）

藤井委員長：これで、第3回国分寺市行政改革推進委員会を終了いたします。